



## 入賞

### 父が教えてくれたこと

一関市立萩荘中学校 3年  
伊藤 夏海（いとう なつみ）

「良かった。一時は、覚悟した。」

父は、姉の顔を見つめ、目に涙を浮かべながら、言いました。ろうそくの中に照らしだされた、父の涙。それは私が初めて見た父の涙でした。

忘れもしない、東日本大震災発生2日目の出来事です。

姉は、地震発生時、陸前高田市にいました。母はすぐに、姉に電話をかけ続けましたが、全くつながらず、携帯電話の小さい画面から流れる情報は、

「陸前高田は、壊滅状態です。」

ということだけでした。私と兄は、「お姉ちゃんは、そう簡単に死なないよ。」と、必死に母を励まし続けました。しかし、私も心の中では、万が一のことを考え、ただ姉の無事を願うばかりでした。結局その日は、姉との連絡がつかないまま、不安な一夜を過ごしました。

そして、県立病院の医師である父は、姉の安否を確認できないまま翌日DMA Tとして、気仙沼市に派遣されました。DMA Tとは、大規模災害や多くの負傷者が発生した事故現場で活動する、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームのことです。

父は、昔住んでいた気仙沼が変わり果てた姿になっているのを見て、大変ショックを受け、テレビから流れる陸前高田市の映像を見て、「娘は、助からないかも。」と、その時覚悟したのでした。

しかし、父は、「行けることなら、陸前高田市にも行きたい。けれど、目の前にある命を助けることが自分の使命だ。それを一生懸命やっていれば、娘も助かる」

「のではないか。」という思いで、病院に運ばれてくる患者さんの治療にあたったそうです。

父の他にも、数多くの人々が、目の前にある命を救うことが使命だと心に決めて、活動したと思います。中には父のように、自分の家族にも会えないまま、救助に向かった人もいたでしょう。

そこまでして、父たちが救おうとした命が、どれほど重いものだったのか。私は、改めて考えました。

今、私のまわりを見てみると、教室でふざけながら「死ね」と軽々しく言っているのを耳にします。また、ニュースでは、連日のように「いじめ」について報道されています。私は、報道を目にするたびに、命が軽く見られているような気がしてなりません。私たち一人一人の命は、たくさんの人に支えられ、大切にされてきた命だと思います。そして、次の未来へと受け継がれるものだと思います。その大切な命を、軽々しく扱うことは決して、許されないことです。

私には、夢があります。それは、薬剤師になることです。被災地では、薬剤師が、専門的な知識を活かして、不足した薬の代わりになる薬を医師にアドバイスしたり、被災者に寄り添い受診を勧めてくれたり、医師たちを支えるような活動をしたそうです。以前から、薬剤師に興味があった私は、父の話を聞き、「薬剤師になりたい」と決意しました。

私は、父の教えてくれた命の尊さを胸に、夢に向かって進んでいきたいと思います。あの日の父の涙を忘れずに。